

宮城南部国有林の森林計画に関する住民懇談会の概要について

令和8年4月を始期とする宮城南部森林計画区の地域管理経営計画等の策定にあたり、国民参加の森林づくりを進める一環として、国有林の森林計画に関する説明を行うとともに、地域の皆様からご意見・ご要望をお伺いする「住民懇談会」を開催しました。

今後は、いただいたご意見等を参考に、地域管理経営計画等の策定作業を進めてまいります。

- 1 開催日時：令和7年1月21日（火曜日） 13時30分～15時35分
- 2 開催場所：宮城県仙台市 エル・パーク仙台 セミナーホール
- 3 出席者：森林計画検討委員2名、国有林モニター2名、一般参加者5名、
宮城県及び管内市町村担当者3名
東北森林管理局・仙台森林管理署19名 計31名
- 4 主な意見等の概要
 - （1）カーボンニュートラル実現に向けた取組として、適切な間伐によるだけでなく、炭素貯留量・炭素吸収量は大径木の方が多いとの研究結果もあることから、国有林として試験等してはどうか。
 - （2）海岸防災林は今後森林としての管理となっていくが、現地の状況を踏まえ一律な管理ではなく、状況に応じ防災機能を維持していく管理経営をしてほしい。
 - （3）地域産業として林業事業体の育成にも配慮してほしい。
 - （4）再生可能エネルギーへの国有林の活用について、景観や環境、経済的な観点を含めた総合的な検討をしてほしい。また、設置等にあたり地域と連携を強化してほしい。
 - （5）林業の省力化、低コスト化も大事だが、安全な労働環境の実現をお願いする。また、林業従事者の確保対策として魅力ある林業を広めてほしい。
 - （6）オオシラビソの立ち枯れは観光資源として課題となっていることから、東北森林管理局での復活に向けた取組に期待している。
 - （7）こけし原料としてミズキの確保が課題となっている。
 - （8）花粉発生源対策として、伐採後の他県産種子由来苗木の植栽に官民連携して活用いただきたい。

